



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください http://www.amano-shingo.info

心配の種が膨らむ 「搭乗率保証」

先月の Shingo Scope にも指摘しておりますが、静岡―福岡便の搭乗率保証について、敢えて本日も警鐘を鳴らしておきます。

昨日(14日)、日本航空は長引く赤字経営から遂に、デルタ航空やアメリカン航空との資本提携を模索すると発表したためであります。

日本航空の経営不振は夙に知られたところ、それ故に開港に当たって、静岡県は「搭乗率保証」という我儘な日航の要求を渋々受け入れてしまったのであります。

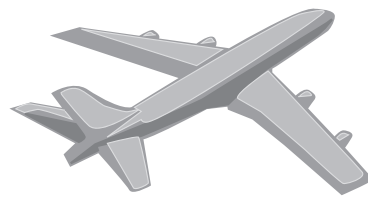
本日は敢えてこの契約内容と実態について、包み隠さず披瀝し、読者のご判断に期待致します。

9月27日現在、県から提出された資料に基いて計算してみましよう、先ずこれまでの静岡―福岡線の提供座席は総計で83,630席に対し、70%の座席数が58,541座席となります。実際の搭乗者数は53,273人です。従って58,541座席―53,273人から5,268席分が補償の対象となります。金額に換算しますと5,268人×15,800円＝8,323万円となりこの金額が9月27日現在、本県が日本空港に支払う保証料であります。

云うまでもなく、巷間指摘されてきた「空港の赤字」とは別途の金銭であります。

報道では既に川勝知事がこの「搭乗率保証」に強い関心を抱き、日航の西松社長と話し合っているとのことですが、もとより県民には到底納得できない契約であれば、

議会の付帯決議通り、早期に契約の廃棄を求めるのであります。殊にアメリカ資本が導入された暁には甘い解決の道はあり得ないと考えます。



形骸化した国民文化祭

愈々、10月24日から第24回国民文化祭しずおか2009がスタートします。これはスポーツ部門では国民体育大会と並ぶもので、国民文化部門の「祭典」と位置付けられ、毎年、各都道府県の持ち回りで開催されております。

静岡県も数年前、国から当番県として指名されて以来、担当部局は五里霧中の中を懸命に準備して今日に至ったのでありますが、残念ながら今尚、県民の国民文化祭に対する認知度の低さ、関心の希薄さに当局も頭を痛めているところ

ろであります。

しかし一方、本県の歴史的文化や伝統芸能など、誇るべき祭典としてこれを実行しようとした担当職員には、その準備段階において、文科省やその外郭からの思惑など、徒な指導や干渉も少なからず、準備段階においても様々な軋轢や横槍に不満を抱きながら今日に至ったものと考えます。

率直に言って、この文化の祭典は単に「国民」という「オールジャパン」を連想させるネーミングではあります。実質その中身は県から市町村への振り分けであり、六方を踏んで「国民文化祭」と呼ぶものではないと考えます。

県下一斉、期間限定の祭典であれば、これを機会に極めて勿体ない事業といえるものではありませんか。

更に、これまで100数億円を投入し、本県の「文化の殿堂」として育ててきたSPACがこの「国民文化祭」には全く関わらないのは何故でしょうか。また静岡市の「大道芸」も本県の個性的文化事業の代表と云えるものでしょう。

一体文科省は何を期待し「国民文化祭」を継続しているのか、私には甚だ疑問です。



服織地区—その2 慈悲尾

「慈悲尾」を「しいのお」と読める方は静岡在住の方であっても、先月号の舞台「建穂」と同様、本市の代表的な難解地名に相当するでしょう。ただ、旧静岡市民であれば、嘗ての火葬場、今の「斎場」のある場所として市民にはお馴染みの地名になっております。

一寸一言 私の雑記帳から

「産まない選択—子どもを持たない楽しさ」の編者が少子化大臣という不思議な人事

15日、鳩山内閣が誕生し、発表された閣僚名簿を一瞥して、私にも「なる程」と素直に理解できる陣容でした。

翌日の新聞報道も極めて好意的に、その前途に期待したコメントばかりであり、私からすれば、選挙前の歯軋りするほどの偏向的報道内容は相変わらずのものでした。

若しこれが自由民主党による組閣であったとしたら、例によって重箱の

さて、慈悲尾の地名の起こりですが、一説には「椎の尾」即ち「椎山の尾根」が語源だと言われております。
681年、*道昭法師がこの山裾に保壇院を建立したことを切っ掛けとしてこの地に「慈悲」の2文字を当てたと云われております。

隅を楊枝ではじるように政治資金の会計帳簿、過去の言動、揚げ足取りなど今頃は賑やかに、面白く露呈されている所でしょう。

そうした報道陣の好意的姿勢によって、「臭いものに蓋」をして頂いた大臣が民社党の福島党首でありました。

今回、女史は少子化担当の大臣を拝命しましたが、実は、92年に、標記の「産まない選択・・・」の編者として多数の論客と共に出版したのであります。

この中で大臣自身は出産、育児の経験者でありながら、他者の「産まない選択」にも理解を示して、内容は「選択（産む、産まない）の自由を阻害する社会は良くない」の主張と共に「産

また一方では、1480年、今川氏親が七堂伽藍を整え再興し、これを慈悲山増善寺と改めたが、これより地名を「慈悲尾」と呼ばれるようになったとも云われておりますが、静岡市観光協会「駿府の歴史」の中では、増善寺は石雲院（静岡空港に隣接した）の小本寺であって、往古は慈悲寺と称した真言宗の寺院であったとあります。そこから地名「慈悲尾」は相当昔から存在していたものと考えられます。
※飛鳥時代の高僧

まない選択」を勧めているのであります。

例えば「出生率という名の危険な罠」の見出しの対談や「産んでも、産まなくても、楽しければいい」の手記が掲載されているのです。

処で、少子化大臣に決定した途端、福島氏のホームページからこの出版物の登録が抹消されたのでした。やはりご自身も「不味い」と考えたからでしょう。

今日の日本の少子化現象は「国家の浮沈」に関わる重大事であれば、どうぞ福島大臣にも異なる観点から政策の推進を期待致します。

彩時記

秋の味覚も節約志向？

秋の味覚の象徴であるマツタケや、ぶどう、梨などの果物類。今年は昨年比で2割ほど安くなっているそうです。その理由は天候に恵まれたことと、市場の需要が減っているため。特にマツタケは、高級料亭などの客足が遠のいているため、自然と価格が下がっているようです。

ちなみに、家計の食費を無理なく節約するには、高級品の果物やお菓子を買うのを控えるのが効果的とのこと。しかし、ものは考えようです。いままで手が届かなかった高級食材が格安に買えるチャンスを生かして、わが家の食卓を時にはリッチに演出する。そんな気配りが家族の笑顔につながり、しいては景気回復のパワーにつながるのではないでしょうか。

社会の景気がどうあろうと、秋の味覚は今年もたわわに実り、その美味しさを私たちに惜しむことなく届けてくれます。そんな自然の恵みに感謝しつつ、今年は秋の味覚をより丁寧に楽しみたいものです。

『天野進吾』の歴史講座

町内会の集會、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。

大変ありがたいことにこのSHINGO・SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。